

甲 第 号

釜本 智之 学位請求論文

審 査 要 旨

奈 良 県 立 医 科 大 学

論文審査の要旨及び担当者

	委員長	教授	西尾 健治
論文審査担当者	委員	准教授	辰巳 公平
	委員(指導教員)	教授	西久保 敏也

主論文

Protein C pathway in preterm birth with chronic lung disease: Prospective study

慢性肺疾患の早産児におけるプロテインC経路：前向き研究

Tomoyuki Kamamoto, Yuto Nakajima, Yumiko Uchida, Takashi Nakagawa,
Hitoshi Tonegawa, Yuki Tani, Eri Nishimoto, Yukihiro Takahashi, Toshiya Nishikubo,
Keiji Nogami

Pediatrics International 2022 April in press (doi.org/10.1111/ped.15221)

論文審査の要旨

早産児の代表的呼吸器疾患である慢性肺疾患（CLD）は未熟肺における慢性的な炎症と線維化によって惹起され、成長や発達の遅れの原因となりうる疾患である。抗凝固因子であるプロテイン C（PC）、プロテイン S（PS）、トロンボモジュリン（TM）は、抗炎症作用も有し、成人では肺障害の程度を反映する指標として有用とされるので、極低出生体重児（VLBW）において CLD 発生とこれら因子の出生時血中濃度との関連について検討している。結果、CLD との関連は見られなかったものの、PS と出生体重との正の相関関係や TM と在胎週数との負の相関関係があることを明らかにしている。公聴会においては、PC、PS、TM の新生児の正常値について回答、PS と出生体重と正の相関については、成長に伴う肝臓の成熟の影響によるものと回答された。TM と在胎週数の負の相関については、TM が抗凝固や抗炎症だけではなく胎盤の形成や胎児の発育・器官形成に関わる因子のため、在胎週数が低いほど TM が高くなると考察された。他の質疑に対する応答ともに適切で論理的であり、本研究は発生・発達医学の発展に寄与すると考えられ博士（医学）に学位に値すると判断した。

参 考 論 文

1. 難治性新生児乳び胸を合併した極低出生体重児の2例

中島 由翔, 釜本 智之, 中川 隆志, 西本 瑛理, 利根川 仁, 内田 優美子,
吉澤 弘行, 新居 育世, 箕輪 秀樹, 金廣 裕道, 高橋 幸博, 西久保 敏也

2.

以上、主論文に報告された研究成績は、参考論文とともに器官機能・病態制御医学 発生・発達医学の進歩に寄与するところが大きいと認める。

令和4年9月13日

学位審査委員長

器官機能・病態制御医学

総合臨床病態学

教授 西尾 健治

学位審査委員

生体情報・防御医学

血栓止血学先端医学

准教授 辰巳 公平

学位審査委員(指導教員)

器官機能・病態制御医学

発生・発達医学

教授 西久保 敏也